

数学

<全体分析>

試験時間	120 分	解答問題数	4 題
------	-------	-------	-----

解答形式

①は小問集合で客観式。②、③、④は記述式。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

一昨年までの入試に比べると極端に解きづらい問題はなくなったが、全体としては難しい問題もある。

出題の特徴

典型的なパターンだけでは解けない問題も出題されているが、①は平易な問題のセットになった。

その他トピックス

昨年に引き続き、複素数平面と整数の問題が出題されなかった。

数学Ⅲの難しい積分問題が出題されず、数学Ⅲの要素が軽くなった。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1 (1) (2) (3) (4)	複素数と方程式 積分 微分 場合の数	数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学Ⅲ 数学A	四次方程式の複素数解を与えて実数解を求める。 直線を z 軸で回転させた回転体の体積。 2つの曲線が接する条件。 同じ色が隣り合わないように玉を並べる並べ方の総数。	やや易 標準 やや易 標準
2	平面ベクトル	数学B	円に内接する三角形。ベクトルの関係式を与えて、その係数を角度で表す。 二等辺三角形になる場合の垂心を求める。	やや難
3	図形と方程式 整式の微分 整式の積分	数学Ⅱ 数学Ⅱ 数学Ⅱ	パラメータ入りの3次曲線の通過領域の面積。 x の値を固定してパラメータを動かしたときの y の値の範囲を求める誘導が付いている。 途中で3次関数の最小値も聞かれる。	やや易
4	場合の数 数列	数学A 数学B	1辺の長さ1の正三角形を n 段敷き詰めてできる1辺の長さが n の正三角形の中に、上向きの正三角形と下向きの正三角形がいくつあるかを数える。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

易しい計算問題も出題されるが、思考力や計算力を問われる標準以上の問題が多い。標準的な問題集をしっかり学習するのはもちろん、過去問を参考にして難易度の高い問題にも積極的に取り組むようにしよう。今年の①の小問集合は、比較的解きやすい問題のセットになっていたが、題意を的確に判断して要領よく答にたどり着くようにしたい。③のような典型的な問題は確実に完答するようにしよう。④のような考えさせる問題を試験の際に解けるようになるためには、普段から自分で色々なことを試して考える習慣が必要だ。